



「学びを創り続ける子どもの育成」にむけた 「学びを創り続ける」取り組み

「学びを創り続ける子どもの育成」をめざし、1学期、各教科・領域が授業実践を踏まえた研究を進めてきました。

学びを創り続けるカリキュラムづくりをめざし、子どもたちにとって「学びの必然性」があるカリキュラムとは、何かを考えてきました。

学びを創り続ける姿の見取りを活かし、

- ①没頭する姿を活かした柔軟な授業展開を踏まえた単元構成
- ②各教科・領域におけるねらいの達成

を図ることができるカリキュラムづくりに取り組んでいます。

本年度当初に、昨年度の実施カリキュラムの見直しをもとに、本年度計画カリキュラムを作成しました。1学期の実践における授業分析や子どもの姿（実践カリキュラム）から、新たな計画カリキュラムを作成することが、子どもたちにとっての生きたカリキュラムの創造となり、すなわち、「学びを創り続けるカリキュラム」となると考えています。



算数科「子どもの算数的な『気づき』でつなぐカリキュラムづくり」

算数科では、学びを創り続ける子どもの育成をめざして、子どもが連続発展する算数的な「気づき」を持てるようにしています。そのために、「気づき」に着目した研究を行っています。

1年次、2年次の研究の中で、子どもからのさまざまな「気づき」を分類整理することで、連続発展につながる算数的な「気づき」とは何かを明確にすることができました。そして、その算数的な「気づき」を引き出す手立てや、算数的な「気づき」でつなぐ授業における教師の役割を明らかにすることができました。

本年度は、単元構成や単元の配列に着目して、子どもの算数的な「気づき」を生かしたカリキュラムづくりをめざしています。

そのために、子どもの算数的な「気づき」でつなぐカリキュラムをつくる視点を明らかにしていこうと考えています。



体育科「『没頭』を引き出し、育んだ『思考力』でつなぐカリキュラムづくり」

体育科では、今年度の研究主題を「『没頭』を引き出し、育んだ『思考力』でつなぐカリキュラムづくり」として、教科・領域間や単元間、1時間ごとに学びが途切れることなく、子どもが主体的に学びを創り続けていけるようにしたいと考えています。そのための「カリキュラムづくりの視点」として、3つの視点を設定し研究を進めています。

①『複数単元を並行して行う配列』（年間計画）

《例》中学年陸上運動領域の「幅跳び」と「高跳び」を並行して行う。

②『発達段階に沿った学習内容の設定』（単元計画）

低学年「活動の喜び」

中学年「達成の喜び」

高学年「創造の喜び」

を味わうことのできる学習内容の設定

③『学び合いの場の設定』（単元計画）

「思考の流れ」と「思考の方法」を育む場の設定



道徳「学びを創り続ける道徳の授業」

道徳では、昨年度までの研究で、道徳における「学びを創り続ける子ども」とはどのような子ども像であり、「学びを創り続ける道徳の授業」のあり方とはどのような授業であるのか明らかにしてきました。さらに、その授業における教師の役割として「学びを創り続ける姿の見取り」と「学びを創り続ける授業構成」について授業研究を進めました。道徳の時間を学級活動と関連を図ることで学びを創り続ける姿を見取ることができ、その見取りを活かして学びを創り続けることを推進させる授業をつくることができました。しかし、道徳的価値の内容項目によっては、学級活動と関連を図れず、学びを創り続ける姿を見取することもできませんでした。

そこで本年度は、すべての内容項目でも学びを創り続ける授業が展開できるように、各教科・領域や学校行事などとの関連性を見出し、教育課程を見直していくことから、「学びを創り続けるカリキュラムづくりの視点」を明確化していきます。



共に「創り続ける」研究

～春の指定授業 外部協力員との研究の取り組み～

5月の校内授業公開・研究討議を踏まえ、6～7月に、外部協力員、大阪市・大阪府・大阪教育大学から指導助言の先生をお招きし、研究討議を行いました。

各教科・領域ごとに、本年度研究副題「学びを創り続けるカリキュラムづくり」にむけ、授業実践を通して研究討議を行いました。さまざまな視点からご意見をいただき、共に研究を推し進めていくことができるようにしています。



Open Café ありがとうございました

本校の教員が講師となり、若手や新任教員、または、教員を目指す学生を対象にした公開授業を行い、授業後には、授業づくりや先生の指導の在り方などについてレクチャーする取り組み「Open Café」が、7月21日（火）と8月31日（月）の2回開催されました。

2日間の授業公開では、各教科がその専門性を発揮し、本校独自の教育観「平野スタイル」（本校書籍『平野の知恵袋』に詳しくは掲載しております）にもとづく授業を提案しました。

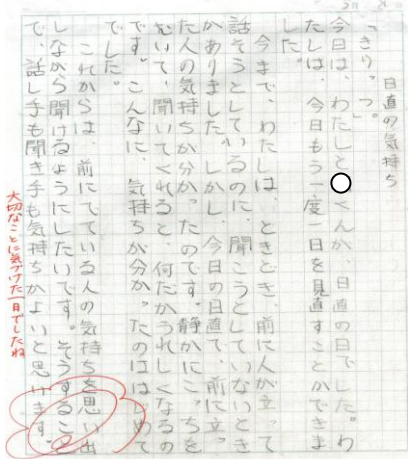
各授業者が、より参会者の方の日々の思いにお答えすることができるような授業公開&講習会をコーディネートしました。

講習会後の全体会では、各教科・領域のブースを設置し、教科を超えた本校の取り組みについて幅広く交流していただくことができましたようです。



コラム 学びを創り続ける架け橋 ～自由ノート～

本校を訪れた先生方から、「平野の子はよく書けますね」「やっぱり、附属の子は元々持っている力が違う」という声を聞くことがあります。そういうときには、「違います。もちろん、もともと持っている力もあるでしょうが、平野では、1年生から『自由ノート』と言って、日記を毎日書いています。だから、子どもたちは次第に書く力を身に付けていっているのです。」と答えています。



本校に入学してから毎日書き続ける自由ノート。卒業の日まで、1日も欠かさずに取り組み続けます。ノートを開かない日が1日たりともないのです。毎日、毎日、学び続ける取り組みの一つです。1日の終わりに、その日1日を「振り返る」きっかけとして自由ノートの取り組みを位置づけています。その日の出来事を一つひとつ丁寧に振り返る中で、そのときの自分の気持ち、友だちの行動、家族の思いなどにも気付いていくのです。